

【至峰堂画廊 SHIHODO Gallery】

## Orion' s Belt – Maria BARBAN Solo Exhibition –

会期： 10月25日（水）～11月15日（水）

至峰堂画廊（東京都中央区銀座）は、「Orion' s Belt – Maria BARBAN Solo Exhibition –」を、10月25日（水）～11月15日（水）に至峰堂画廊にて開催いたします。

本個展は、台北の Neptune Gallery のご協力により実現いたしました。

台北出身の Maria は、古典芸術への憧憬を基底とし、その宗教的な精神性や哲学を、油彩と黒箔、シルクスクリーン技法を用い繊細に表現しています。

今後の活躍が見込まれる Maria BARBAN の日本初個展をお楽しみください。



マリア・バーバン「Orion' s Belt」  
油彩・アクリル・黒箔・キャンバス 20F



マリア・バーバン「Lies from the other side」  
油彩・アクリル・黒箔・キャンバス 8F

### 【Orion' s Belt – Maria BARBAN Solo Exhibition – 概要】

会 期：2023年10月25日（水）- 11月15日（水）  
会 場：至峰堂画廊  
住 所：東京都中央区銀座 6-4-7 いらか銀座ビル 1・2階  
営業時間：10:00～19:00 日曜休 最終日は午前12時まで

### 【Opening Reception 開催】

日 時：2023年10月28日（土）16:00～19:00  
会 場：至峰堂画廊  
住 所：東京都中央区銀座 6-4-7 いらか銀座ビル 1・2階

作家 Maria BARBAN 氏、Neptune gallery CEO 胡閔堯氏も来場いたします。予約不要・入場無料。  
軽食・ドリンクをご用意してお待ちしております。皆様の交流の場となりましたら幸いです。

< お問い合わせ先 >

至峰堂画廊 / 広報担当 山岡

MAIL : ginza@shihoudou.co.jp TEL : 03-3572-3756 FAX : 03-3572-3757 <https://www.shihoudou.co.jp>

## 作家コメント

北半球の冬の夜空に明るく輝く、もっとも有名な星座の一つであるオリオン座。人体のシルエットを象っているとされるオリオン座は、オリオンの「腹部」を通る、直線状に連なった三つ星からなる「オリオンのベルト」に象徴される。紀元前 1050 年頃の天体観察記録によると、古代エジプト人はギザのピラミッドの建設にあたり、ナイル川を天の川とし、ピラミッドの方角をオリオンのベルトと揃えたとされている。オリオン座には神々が宿り、天国への入口がオリオンのベルトとされたのだ。

2013 年の来日の際、私は六本木の国立新美術館で開催されていた「貴婦人と一角獣展」へ幸運にも足を運ぶことができた。展覧会の目玉は総全長 22 メートルにも及ぶ壮大なタペストリー 6 枚。ルネサンス期の最も有名なタペストリーのひとつである「貴婦人と一角獣」の主題によって語られる意味合いははっきりと解明されていないが、浮世の愉楽や宮廷文化についての寓話的な表現であるとされている。そのミステリアスさで人々を魅了してやまないこのタペストリーの実物を、元々普通の旅行のつもりで過ごしていた中で目にできたことは僥倖であり、巨大なる実物の発するオーラは、いかなる複製からも得難いものだった。

古典芸術への愛を起点に、古典作品を AI 画像生成ツールに読み込み、自ら撮影した写真やインターネット上で見つけた画像などと組み合わせることで、自らの制作の参照となる「複合的な古典作品」を作成した。この取り組みは、古典芸術への敬意を表すると同時に、AI、即ち人工知能の新時代への賛辞でもある。

この度の展覧会の作品には、油絵とシルクスクリーンの技法と併せて、慎重に選ばれた黒箔を用いている。黒箔は銀箔を酸化させて作られている性質上、非常に脆く扱いに注意が必要だ。そしてその特徴として繊細な、磁気を帯びたような紋様や、高貴でなおかつ控えめな神秘性を帯びている。画面にはルネサンス期のタペストリーの背景として用いられる、一面を重なりなく埋め尽くす小さな花や植物の紋様「mille-fleurs」（千花模様）へのオマージュを込めた。作品の根幹や技法は、シンプルでありながら、展覧会の題名に秘められた意味に触れる宗教的な精神性や哲学的な思索を示唆している。

Maria BARBAN